

## 令和6年度福島県及び周辺地域の放射性物質 モニタリングの調査結果概要

(資料4 p3~4)

## 1. 地点

公共用水域 約600地点

(河川、湖沼、沿岸域)

地下水 約400地点

- : 河川・湖沼等
- : 沿岸
- : 地下水
- : 福島第一原子力発電所

## 2. 対象

公共用水域 水質及び底質

地下水 水質

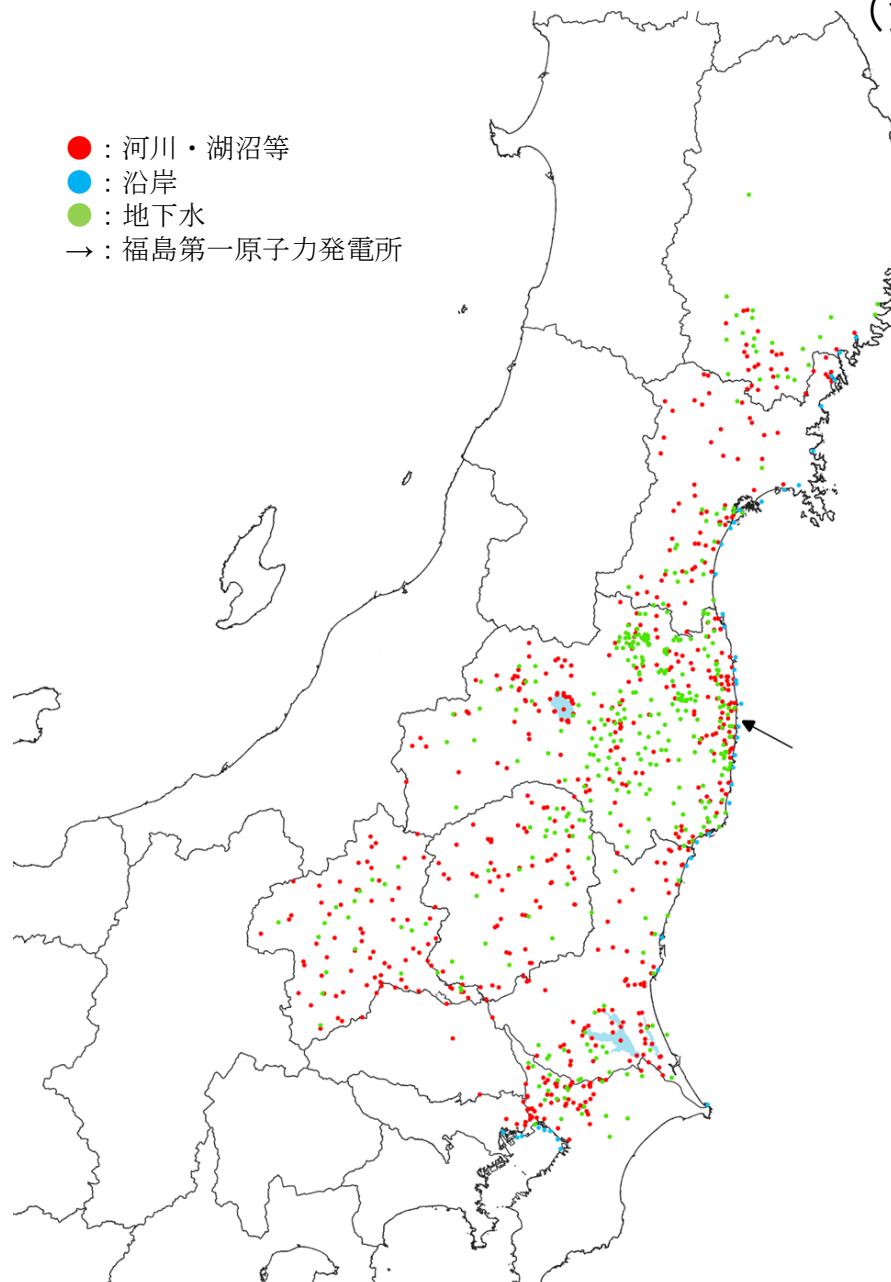
## 3. 頻度

公共用水域 年 2 ~ 10回

地下水 年 1 ~ 4回

## 4. 対象項目

主にCs-134及びCs-137



## 震災対応モニタリングにおける放射性核種の検出下限値の目標値

放射性核種	公共用海域(水質)	公共用海域(底質)	地下水
放射性セシウム (Cs-134、Cs-137)	1Bq/L程度	10 Bq/kg程度	1Bq/L程度
放射性 ストロンチウム	Sr-90	1Bq/L程度	1Bq/kg程度
	Sr-89	—	1Bq/L程度

※以降、「不検出」とは検出下限値未満であることを表します。

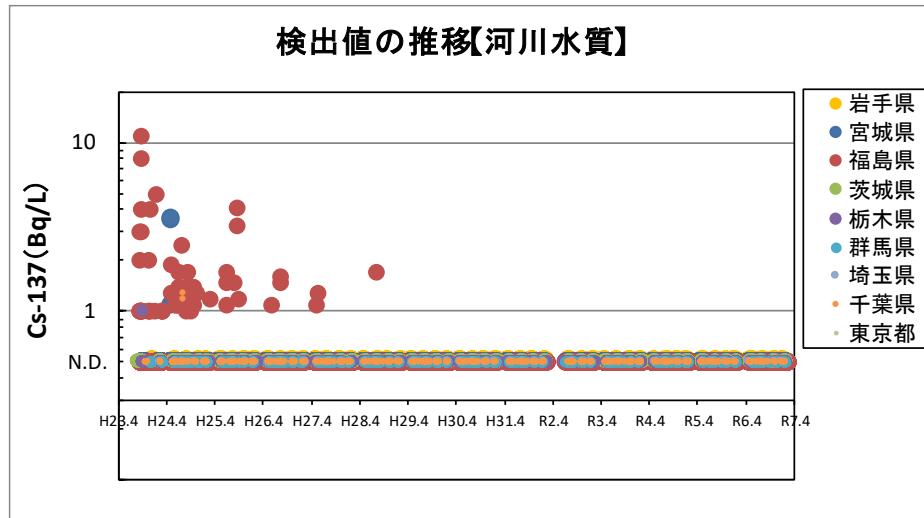
- 令和6年度より、解析に用いる放射性セシウムの値を、前年度までの合計値( $Cs-134 + Cs-137$ )による方法から、 $Cs-137$ の値に変更した。
- グラフ等に示した検出値は、 $Cs-137$ の値とし、解析値は過年度分の解析も含め、 $Cs-137$ を元に解析した値を示している。

## 水質

(資料4 p7)

## 河川

平成29年度以降は全ての地点において放射性セシウムは検出されていない。



(※)平成23年度のみ測定を実施した山形県については作図を省略した。

都県	令和6年度				令和2～令和6年度			
	試料数	検出数	検出率 (%)	検出値の範囲 (Bq/L)	試料数	検出数	検出率 (%)	検出値の範囲 (Bq/L)
岩手県	80	0	0.0	検出下限値未満	381	0	0.0	検出下限値未満
宮城県	196	0	0.0	検出下限値未満	931	0	0.0	検出下限値未満
福島県	816	0	0.0	検出下限値未満	3,832	0	0.0	検出下限値未満
浜通り	324	0	0.0	検出下限値未満	1,518	0	0.0	検出下限値未満
中通り	324	0	0.0	検出下限値未満	1,532	0	0.0	検出下限値未満
会津	168	0	0.0	検出下限値未満	782	0	0.0	検出下限値未満
茨城県	212	0	0.0	検出下限値未満	1,007	0	0.0	検出下限値未満
栃木県	275	0	0.0	検出下限値未満	1,313	0	0.0	検出下限値未満
群馬県	214	0	0.0	検出下限値未満	1,015	0	0.0	検出下限値未満
埼玉県	8	0	0.0	検出下限値未満	38	0	0.0	検出下限値未満
千葉県	200	0	0.0	検出下限値未満	949	0	0.0	検出下限値未満
東京都	8	0	0.0	検出下限値未満	38	0	0.0	検出下限値未満
総計	2,009	0	0.0	検出下限値未満	9,504	0	0.0	検出下限値未満

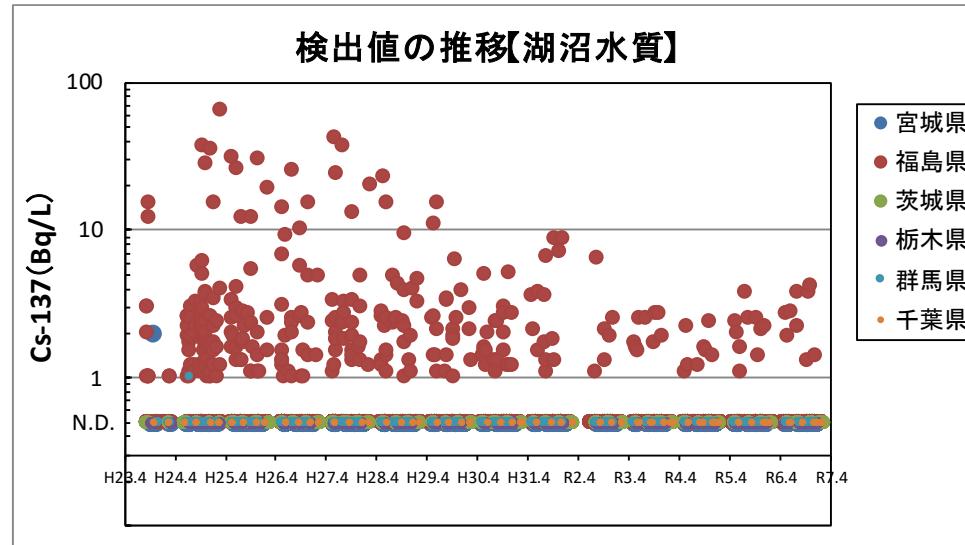
備考)令和6年度より、解析に用いる放射性セシウムの値を、前年度までの合計値(Cs-134+Cs-137)による方法から、Cs-137の値に変更した。検出値はCs-137の値、解析値は過年度分の解析も含め、Cs-137を元に解析した値を示している。

## 水質

(資料4 p8~9)

## 湖沼

- 平成25年度以降は福島県以外の地域では検出されていない。
- 令和6年度の検出は9試料(2地点)、令和5年度は10試料(2地点)。
- 令和6年度の測定値の範囲は検出下限値未満~4.2Bq/L。



(※)平成23年度のみ測定を実施した山形県については作図を省略した。

都県	令和6年度				令和2~令和6年度			
	試料数	検出数	検出率(%)	検出値の範囲(Bq/L)	試料数	検出数	検出率(%)	検出値の範囲(Bq/L)
宮城県	109	0	0.0	検出下限値未満	530	0	0.0	検出下限値未満
福島県	816	9	1.1	検出下限値未満 ~ 4.2	3,906	42	1.1	検出下限値未満 ~ 6.4
	浜通り	359	9	2.5	検出下限値未満 ~ 4.2	1,677	41	2.4
	中通り	109	0	0.0	検出下限値未満	544	1	0.2
	会津	348	0	0.0	検出下限値未満	1,685	0	0.0
茨城県	143	0	0.0	検出下限値未満	693	0	0.0	検出下限値未満
栃木県	62	0	0.0	検出下限値未満	298	0	0.0	検出下限値未満
群馬県	178	0	0.0	検出下限値未満	876	0	0.0	検出下限値未満
千葉県	40	0	0.0	検出下限値未満	188	0	0.0	検出下限値未満
総計	1,348	9	0.7	検出下限値未満 ~ 4.2	6,491	42	0.6	検出下限値未満 ~ 6.4

備考)令和6年度より、解析に用いる放射性セシウムの値を、前年度までの合計値(Cs-134+Cs-137)による方法から、Cs-137の値に変更した。検出値はCs-137の値、解析値は過年度分の解析も含め、Cs-137を元に解析した値を示している。

## 沿岸

- 過年度を含め、全ての地点において放射性セシウムは検出されていない。

## 地下水

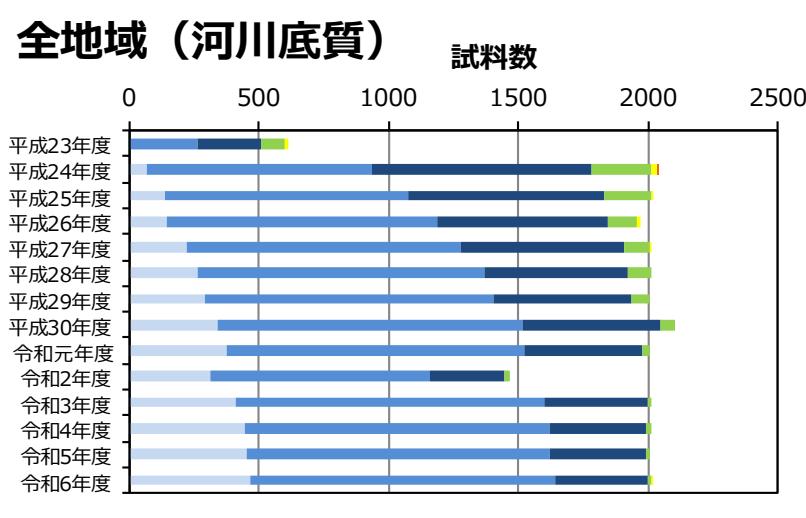
- 平成24年度以降は全ての地点で検出されておらず、令和6年度も検出下限値未満。

# 福島県及び周辺地域の放射性物質モニタリング(結果・検出状況)

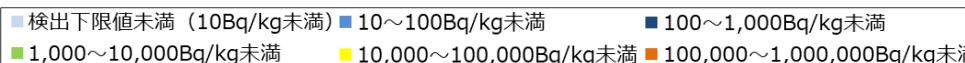
底質

河川

(資料4 p.10~11)



濃度区分

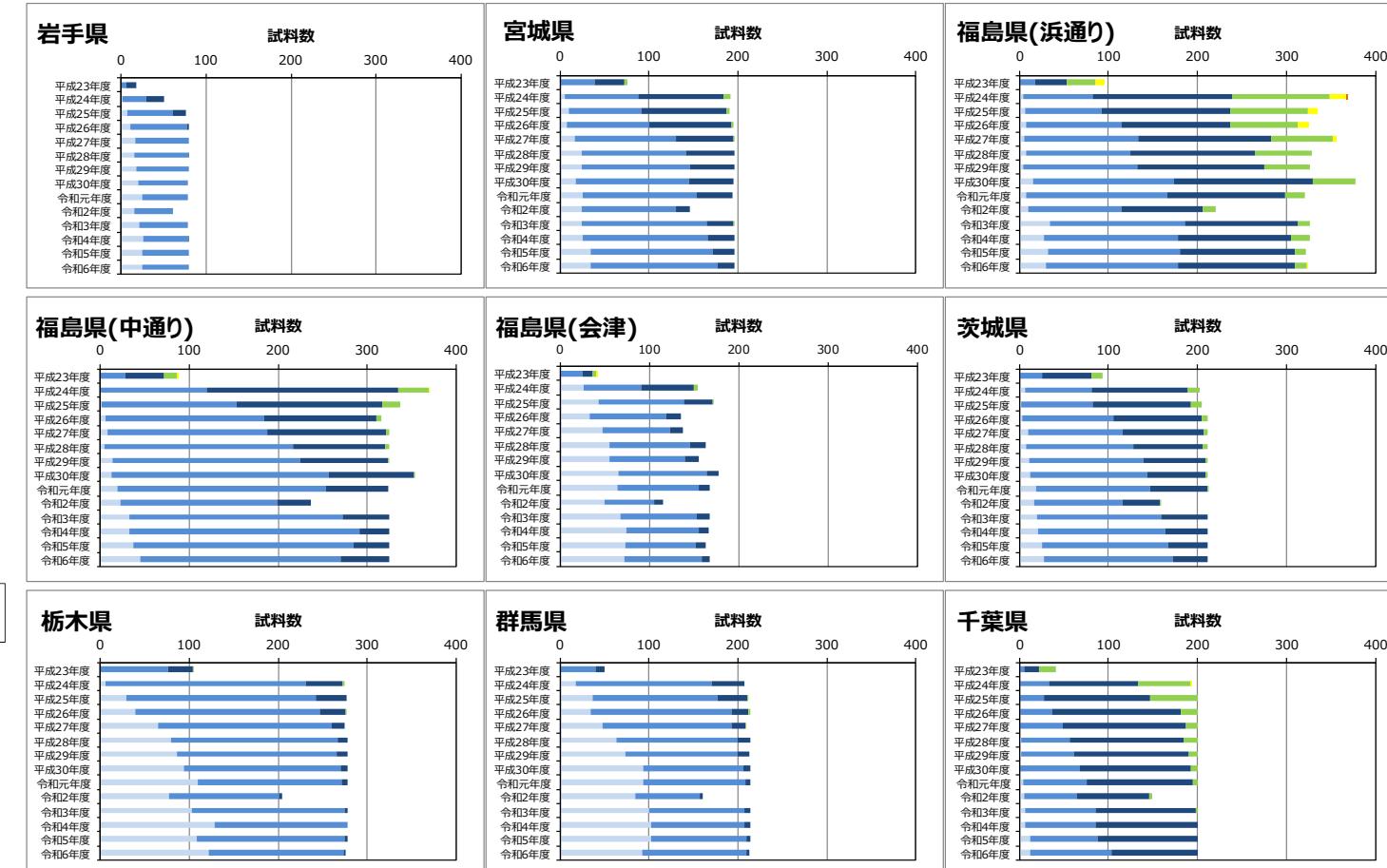


※令和2年度は、全国に適用された新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が解除された7月以降に調査を実施したため検体数の総数が少なくなっている。

※検体数が少ない都県は割愛

※検出値はCs-137。

各都県別の濃度区分の推移



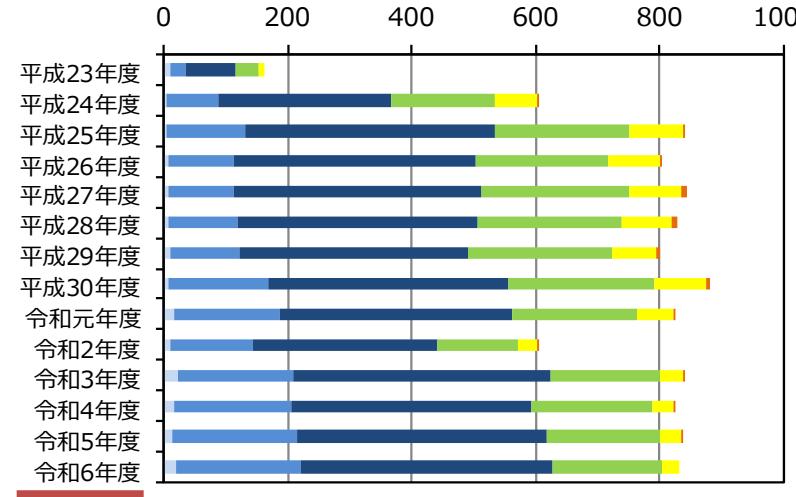
- 令和6年度について、検出下限値未満が23.2%(466試料)、10以上100Bq/kg未満が58.3%(1,172試料)、100以上1,000Bq/kg未満が17.7%(356試料)であり、1,000Bq/kg未満の試料が全体の99.3%を占めていた。
- 経年的には、多くの都県で減少傾向が見られる。

# 福島県及び周辺地域の放射性物質モニタリング(結果・検出状況)

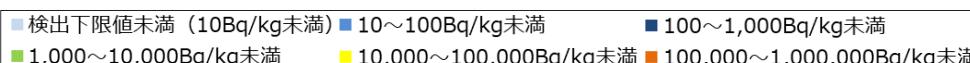
底質

湖沼

## 全地域 (湖沼底質) 試料数



## 濃度区分



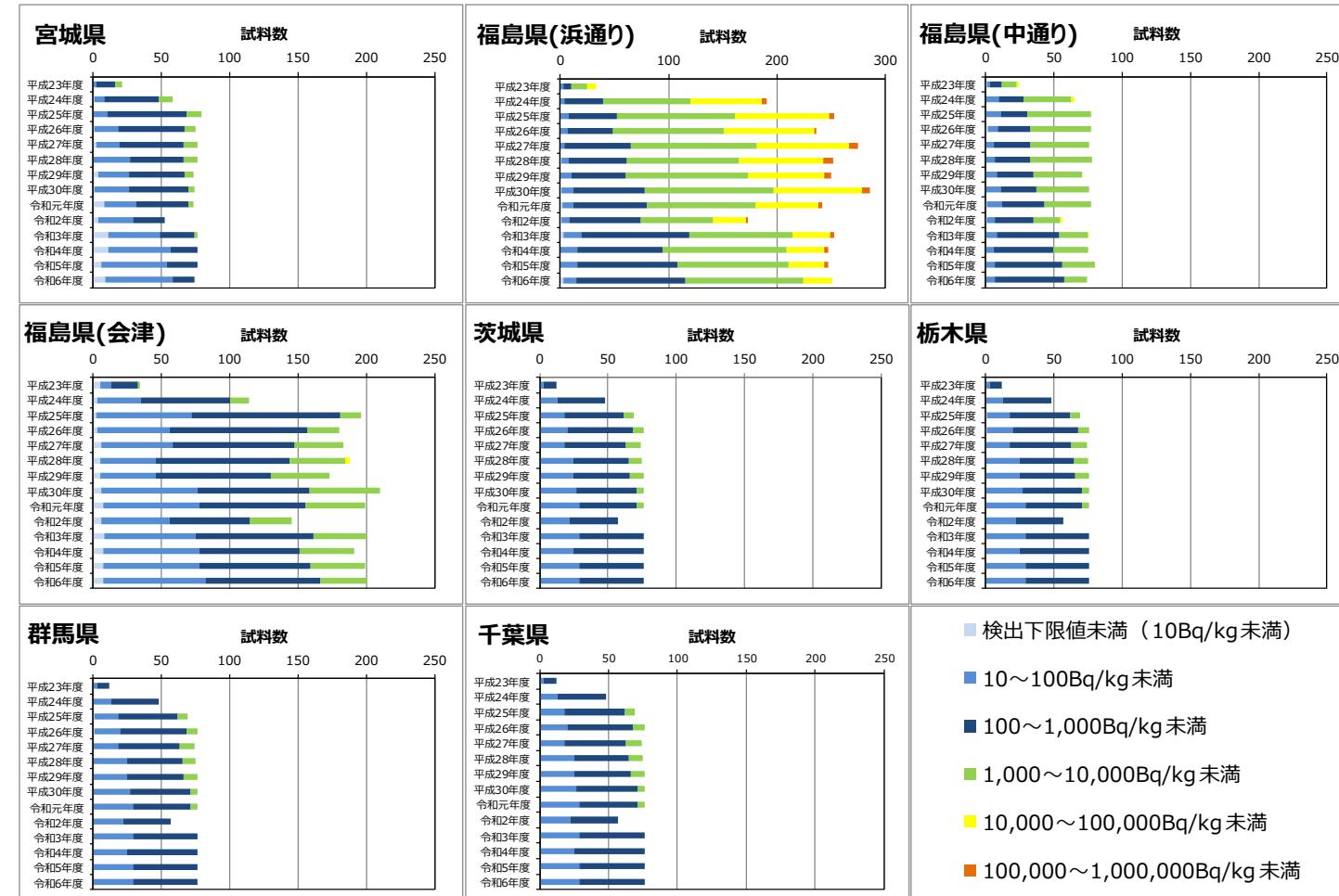
※令和2年度は、全国に適用された新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が解除された7月以降に調査を実施したため検体数の総数が少なくなっている。

※検体数が少ない都県は割愛

※検出値はCs-137。

## 各都県別の濃度区分の推移

(資料4 p.10、12)



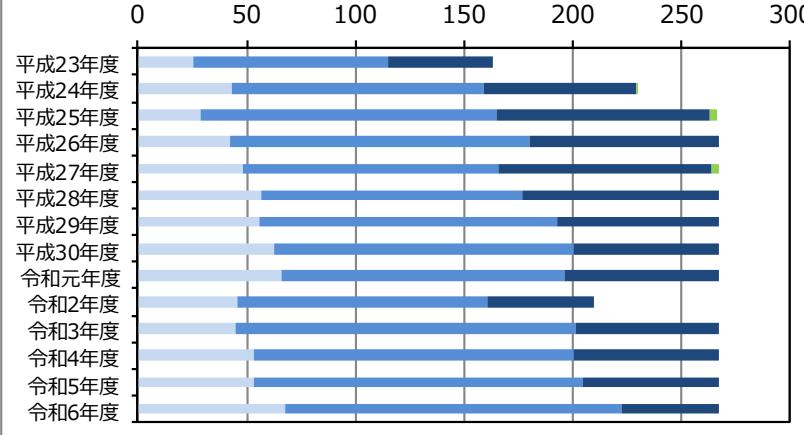
- 令和6年度について、検出下限値未満が2.1% (19試料)、10以上100Bq/kg未満が22.4% (202試料)、100以上1,000Bq/kg未満が44.9% (405試料) であり、1,000Bq/kg未満の試料が全体の69.3%を占めていた。
- 令和6年度は100,000Bq/kg以上の値が認められなかった(年度別にこれまで2～11回検出、令和5年度は3回)。
- 地域によって低濃度の区分の増加が認められるものの、その傾向は河川、沿岸と比較して緩やかで、高濃度の区分が依然存在している。

底質

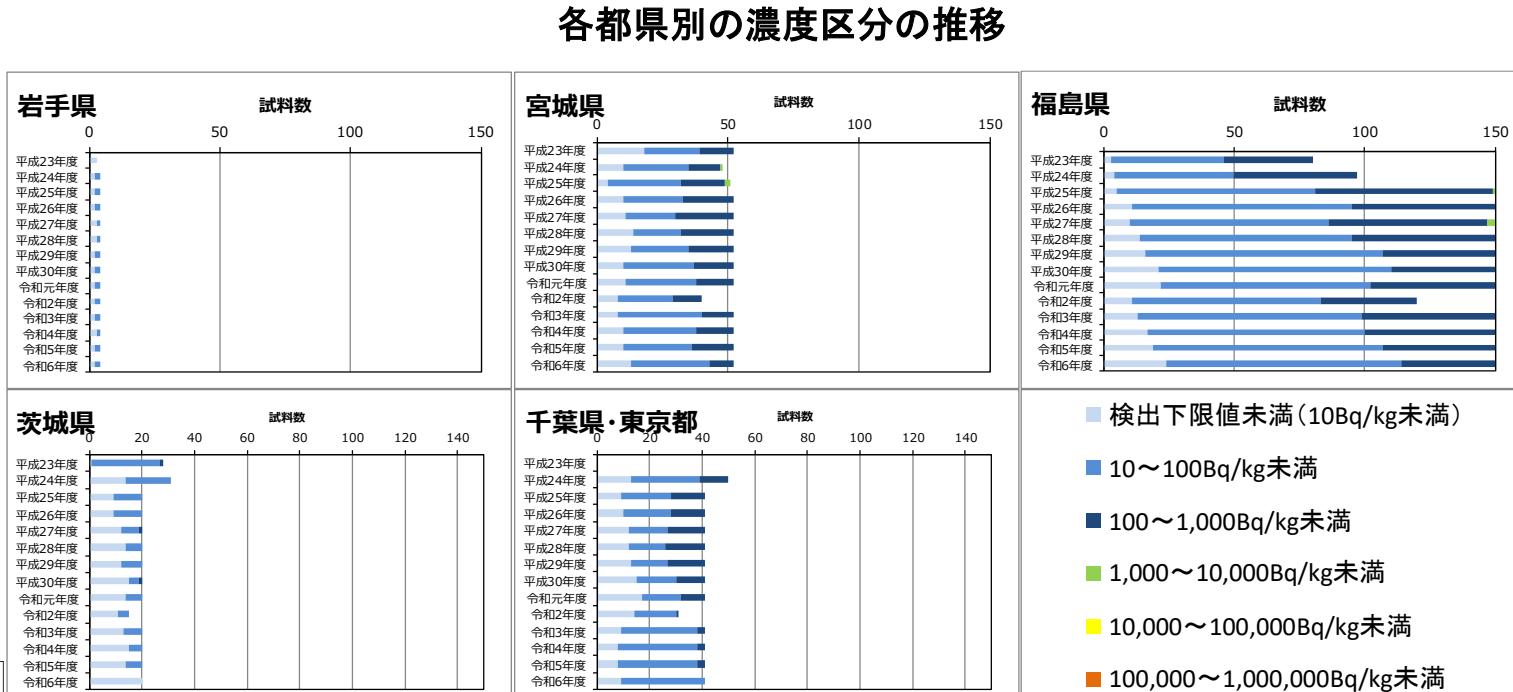
沿岸域

(資料4 p.10、13)

## 全地域（沿岸底質） 試料数



### 濃度区分



※令和2年度は、全国に適用された新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が解除された7月以降に調査を実施したため検体数の総数が少なくなっている。

※検体数が少ない都県は割愛

※検出値はCs-137。

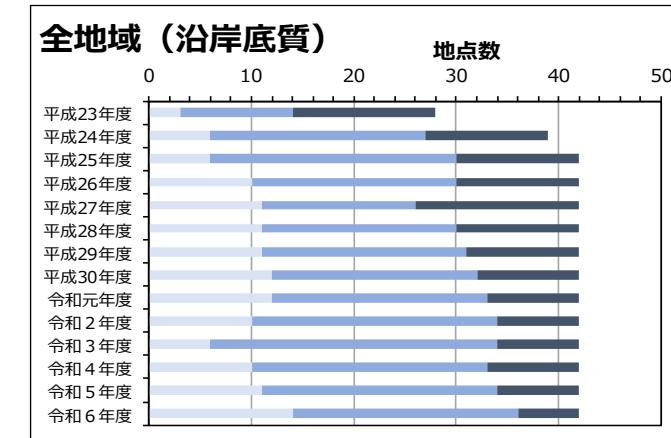
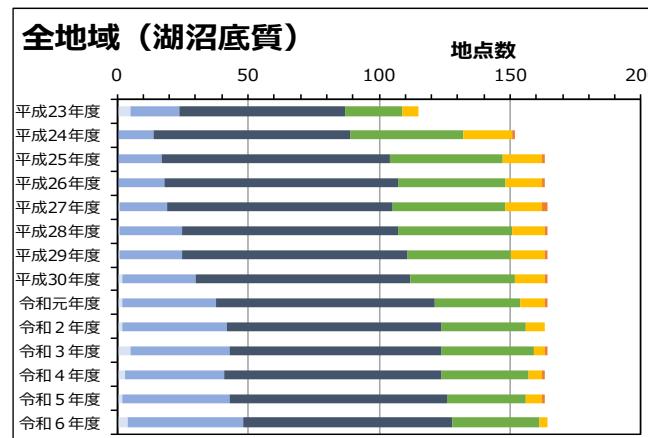
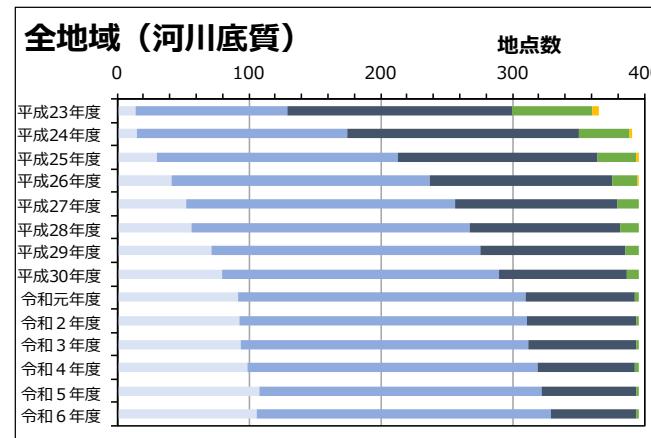
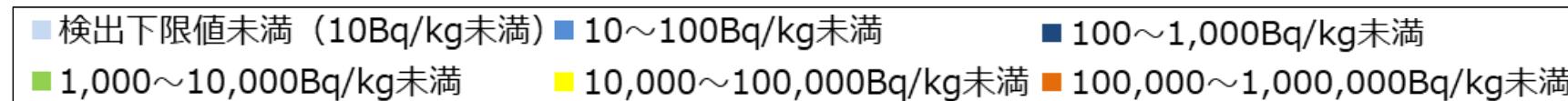
- 令和6年度の全試料数のうち、検出下限値未満が25.5%（68試料）、10以上100Bq/kg未満が57.7%（154試料）、100以上1,000Bq/kg未満が16.9%（45試料）であり、100Bq/kg未満の試料が全体の83.1%を占めていた。
- 河川や湖沼に比べて濃度が低く、平成28年度以降は1,000Bq/kgを超える検出はない。

## 底質

(資料4 p14、59)

モニタリングを継続的に行っている地点のデータを用いて、以下の方法により地点別の濃度分布の推移を確認した。

各地点における放射性セシウム(Cs-137)の全調査結果を用いて、地点ごとに平均値(算術平均。検出下限値未満は5Bq/kg(検出下限値の1/2)で算出。)を求め、全ての地点平均値を濃度別に6区分に整理した。



## ・河川

経年的には、高濃度区分が減少。令和6年度は、  
検出下限値未満が96地点 (24.2%)、  
10以上100Bq/kg未満が233地点 (55.8%)、  
100以上1,000Bq/kg未満が65地点 (16.4%)であり、  
**100Bq/kg未満の地点**が全体の**約83%**を占めていた。

## ・湖沼

経年的には、高濃度区分が減少しているが、河川に比べ緩やかな減少傾向であった。令和6年度は、  
検出下限値未満が4地点 (2.4%)、  
10以上100Bq/kg未満が44地点 (26.8%)、  
100以上1,000Bq/kg未満が80地点 (48.8%)であり、  
**1,000Bq/kg未満の地点**が全体の**約78%**を占めていた。

## ・沿岸

経年的には、高濃度区分はみられない。  
令和6年度は、  
検出下限値未満が14地点 (33.3%)、  
10以上100Bq/kg未満が22地点 (52.4%)、  
100以上1,000Bq/kg未満が6地点 (14.3%)であり、  
**100Bq/kg未満の地点**が全体の**約86%**を占めていた。

## 底質

(資料4 p14、60)

## 検出値の増減傾向

モニタリングを継続的に行っている地点のデータを用いて、以下の方法により増減傾向の推移を確認した。

- ・回帰分析等に基づき、「増加傾向」、「減少傾向」、「ばらつき」、「横ばい」を評価した。
- ・平均値が100Bq/kg以下の地点については大きな変動はないものとして、増減傾向の判定の対象から除外した。

増減傾向	河川		湖沼		沿岸		
	地点数	比率	地点数	比率	地点数	比率	
100Bq/kg以下	—	254	64.1%	24	14.6%	31	73.8%
減少傾向	↘	137	34.6%	102	62.2%	10	23.8%
横ばい	~~~▲	0	0.0%	6	3.7%	0	0.0%
ばらつき	△△△	5	1.3%	19	11.6%	1	2.4%
増加傾向	↗	0	0.0%	13	7.9%	0	0.0%
合計	396	100%	164	100%	42	100%	

## ・河川

6割以上の地点が過年度を含めた地点平均値が100Bq/kg以下であり、3割以上の地点が減少傾向で推移していた。

## ・湖沼

1割以上の地点で過年度を含めた平均値が100Bq/kg以下であり、6割以上の地点が減少傾向で推移していた。

## ・沿岸

7割以上の地点が過年度を含めた地点平均値が100Bq/kg以下であり、2割以上の地点が減少傾向で推移していた。

## 解析方針の変更による検出値の増減傾向の変化

増減傾向の推移について、合計値(Cs-134+Cs-137)を用いた結果とCs-137の値を用いた結果を比較した。合計値による解析と比べ、全期間の平均値が低めに算出されることから、100Bq/kg以下と判定される地点が増加し、「減少傾向」と判定される地点が減少した。また、一部の地点で傾向判定の変化がみられた。

増減傾向		河川		湖沼		沿岸	
		Cs-137	合計値	Cs-137	合計値	Cs-137	合計値
100Bq/kg以下	—	254	218	24	13	31	27
減少傾向	↗	137	173	102	119	10	13
横(ばい)	~~~▲	0	0	6	3	0	0
ばらつき	△△△	5	5	19	16	1	2
増加傾向	↗	0	0	13	12	0	0
合計		396	396	164	163	42	42

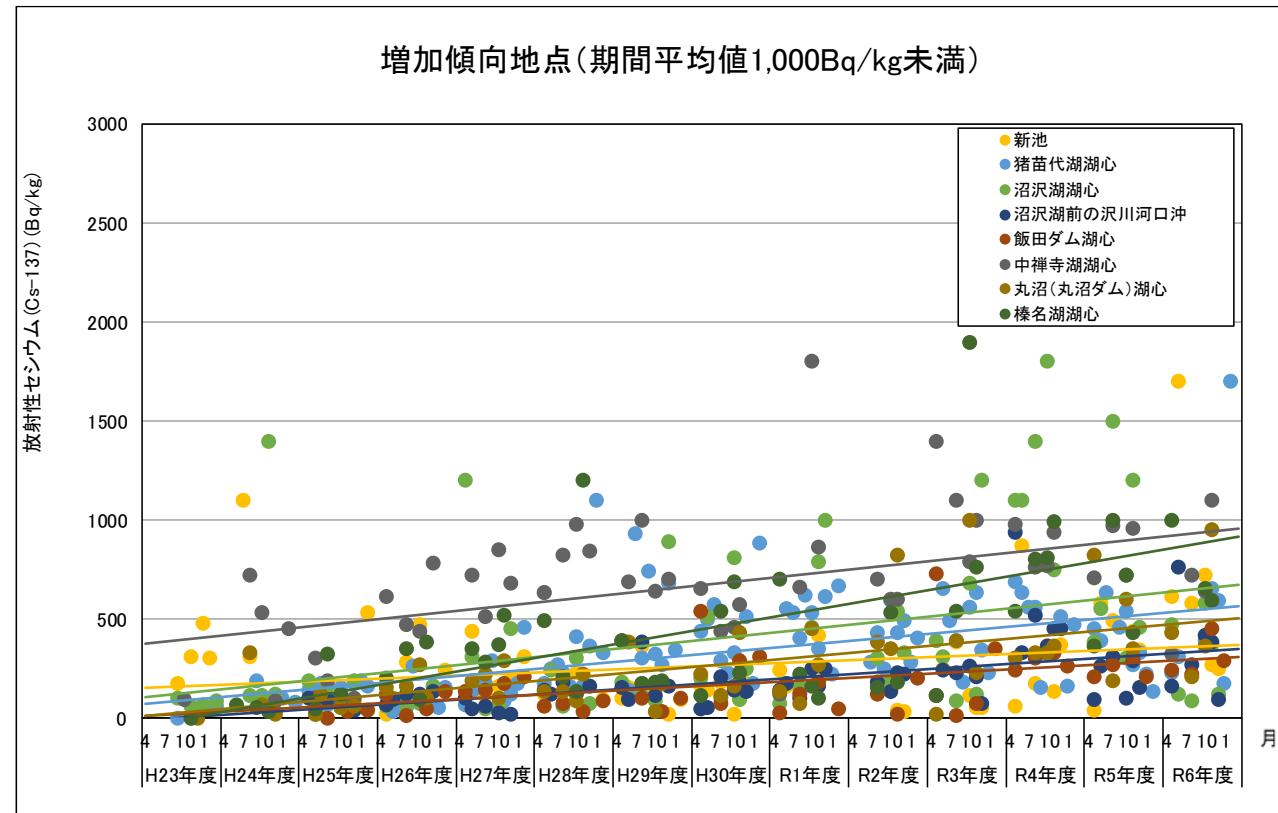
備考)合計値(Cs-134+Cs-137)による解析は令和5年度の結果を引用した。

底質  
採取直の増減傾向

(資料4 p60)

増加傾向を示した湖沼の13地点について追加の解析を行った。

- 13地点のうち、8地点においては、地点平均値は100–1000Bq/kgの濃度区分にあり、相対的に低い濃度区分内の変動であった。

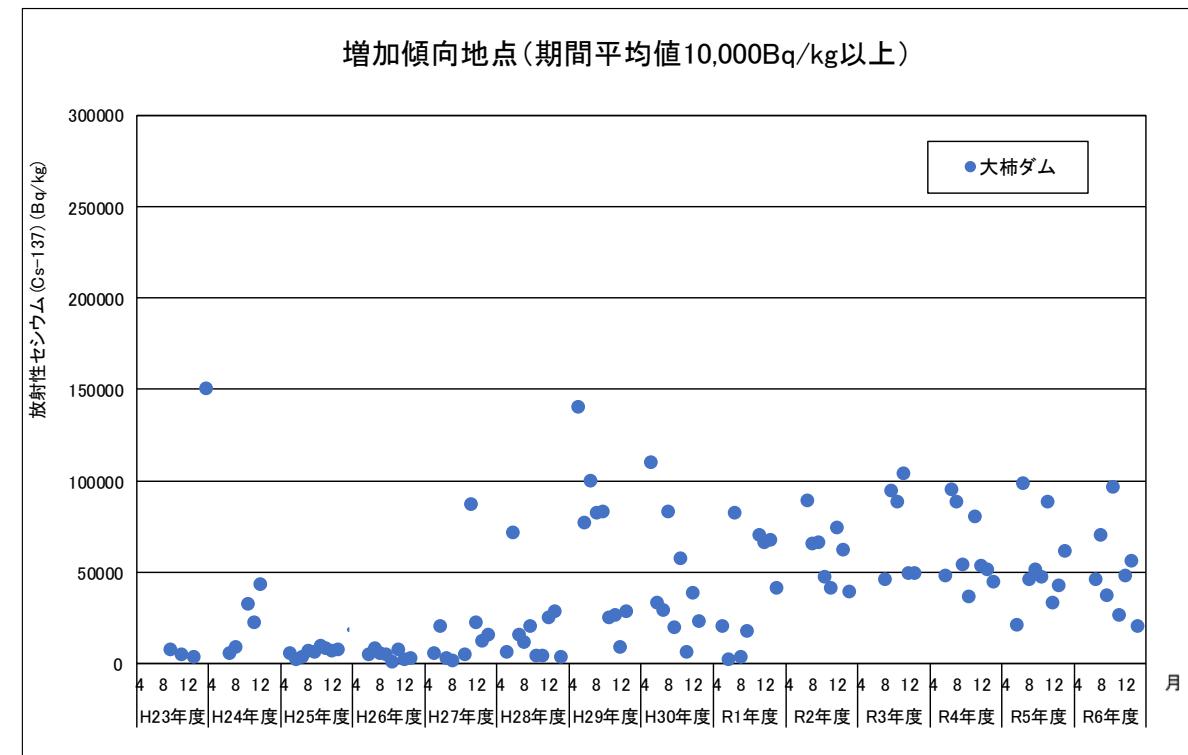
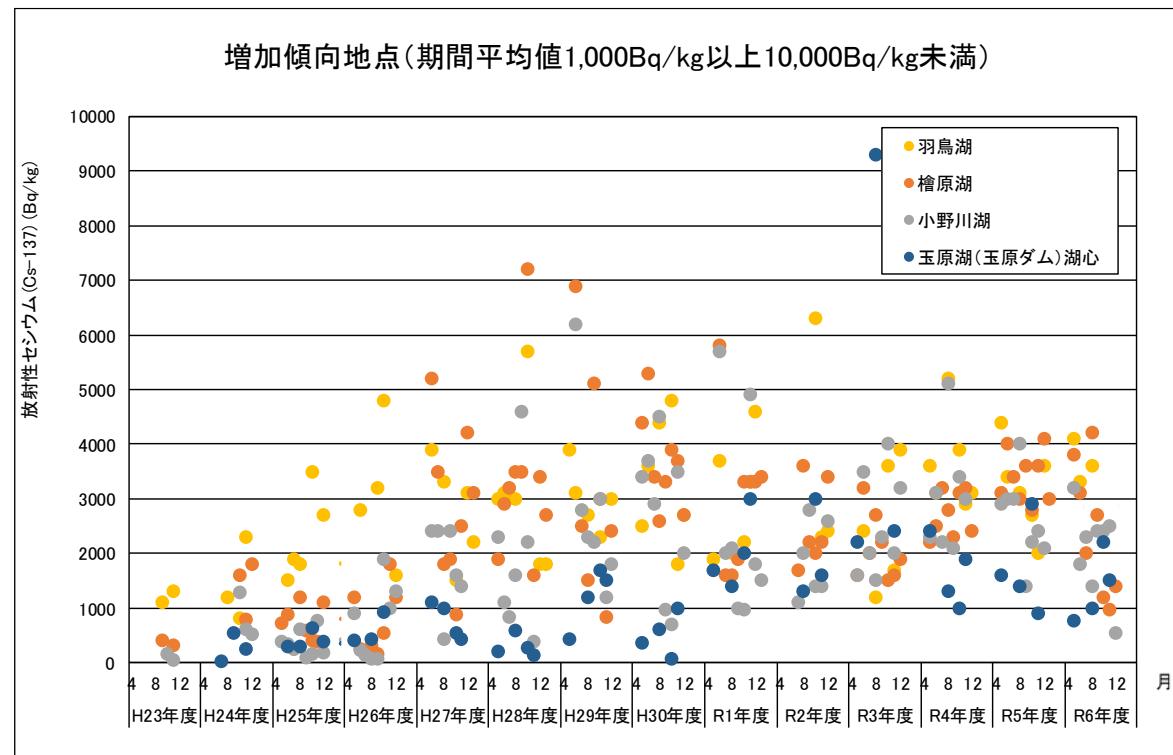


備考)図中の直線は1次回帰式

## 底質

(資料4 p61～62)

- 13地点のうち、4地点においては、地点平均値が1000–10000Bq/kgの濃度区分、1地点においては、地点平均値が10000–100000Bq/kgの濃度区分であった。
- これら5地点について、4年間区間の移動平均を用いた解析を行った。平成28～30年度頃に一時的な濃度の上昇が見られる地点が多く、以後の期間で傾向の変化が見られたため、直近5年間における回帰分析を行った。1地点(大柿ダム)で減少傾向、3地点(檜原湖、小野川湖)で横ばい、2地点(羽鳥湖、玉原湖)でばらつきの傾向であった。



備考)図中の破線は4年間区間の移動平均

## 底質

## 河川底質、湖沼底質、沿岸底質でのSr-90の検出状況

(資料4 p68~70)

属性	都県	令和6年度				令和2～令和6年度			
		試料数	検出数	検出率(%)	測定値の範囲[Bq/kg]	試料数	検出数	検出率(%)	測定値の範囲[Bq/kg]
河川	宮城県	0	-	-	-	4	3	75.0	検出下限値未満～0.46
	福島県	1	0	0.0	-	17	12	70.6	検出下限値未満～0.8
	茨城県	0	-	-	-	8	5	62.5	検出下限値未満～0.79
	千葉県	0	-	-	-	15	5	33.3	検出下限値未満～0.48
	合計	1	0	0.0	-	44	25	56.8	検出下限値未満～0.80
湖沼	宮城県	0	-	-	-	5	5	100.0	0.51～0.95
	福島県	9	9	100.0	1.5～5.5	107	107	100.0	0.37～12
	茨城県	0	-	-	-	9	8	88.9	検出下限値未満～1.1
	栃木県	1	1	100.0	0.93	9	9	100.0	0.46～1.0
	群馬県	9	7	77.8	検出下限値未満～1.5	39	37	94.9	検出下限値未満～2.0
	千葉県	2	2	100.0	0.4～0.42	14	14	100.0	0.31～0.8
	合計	21	19	90.5	検出下限値未満～5.5	183	180	98.4	検出下限値未満～12

## 公共用水域

## ① 河川

底質中のSr-90は、令和6年度は1検体の調査が実施され、検出下限値未満であった(検出率0%)。

検出値は平成28年度以降は1Bq/kgを下回っている。

## ② 湖沼

底質中のSr-90は、令和6年度は22検体の調査が実施され、19検体で検出が認められた(検出率90.5%)。

検出値は基本的に比較的低いレベルで推移しており、令和6年度の測定値の範囲は検出下限値未満～5.5Bq/kgとなっている。

## ③ 沿岸

底質中のSr-90については、平成29年度及び平成30年度に全地点で不検出となつたため、令和元年度以降は調査を実施していない。

## 水質

(資料4 p68、71)

## 地下水でのSr-89及びSr-90の検出状況

年度	Sr-90				Sr-89			
	試料数	検出数	検出率[%]	検出値の範囲[Bq/L](※1)	試料数	検出数	検出率[%]	検出値の範囲[Bq/L](※1)
平成23年度	8	0	0.0	検出下限値未満	8	0	0.0	検出下限値未満
平成24年度	60	0	0.0	検出下限値未満	60	0	0.0	検出下限値未満
平成25年度	77	0	0.0	検出下限値未満	77	0	0.0	検出下限値未満
平成26年度	48	0	0.0	検出下限値未満	48	0	0.0	検出下限値未満
平成27年度	48	0	0.0	検出下限値未満	48	0	0.0	検出下限値未満
平成28年度	48	0	0.0	検出下限値未満	48	0	0.0	検出下限値未満
平成29年度	48	0	0.0	検出下限値未満	48	0	0.0	検出下限値未満
平成30年度	48	0	0.0	検出下限値未満	48	0	0.0	検出下限値未満
令和元年度	48	0	0.0	検出下限値未満	48	0	0.0	検出下限値未満
令和2年度	48	0	0.0	検出下限値未満	48	0	0.0	検出下限値未満
令和3年度	48	0	0.0	検出下限値未満	48	0	0.0	検出下限値未満
令和4年度	47	0	0.0	検出下限値未満	47	0	0.0	検出下限値未満
令和5年度	45	0	0.0	検出下限値未満	45	0	0.0	検出下限値未満
令和6年度	42	0	0.0	検出下限値未満	—	—	—	—
合計	663	0	0.0	検出下限値未満	621	0	0.0	検出下限値未満

※検出下限目標値を1Bq/Lとした。

## (まとめ)

- Sr-90: 公共用水域の底質について、一部の地点で検出されているものの、比較的低いレベルで推移している。公共用水域の水質及び地下水については、測定した全地点において検出下限値未満であった。

## 地下水

- 地下水でのSr-89及びSr-90に関する調査は、平成24年1月～令和7年2月に福島県において、663検体の調査が実施された。調査結果の概要是左表に示すとおりであり、全ての検体でSr-89及びSr-90は検出下限値(1Bq/L)を下回った。

## 公共用水域(水質)

水質中のSr-90については、令和6年度は底質のSr-90が10Bq/kg以上検出した地点がないため実施しなかった。